

【担当教員名】 ○山田まりえ、西野幾子、笹川一郎		対象学年	1	対象学科	理学
		開講時期	前期・後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60
<一般目標：G I O> 解剖学Ⅱでは、特に運動器について骨学、関節・靱帯学、筋学に系統的に分け、それぞれについて名称、位置、構造、機能、ならびにそれらの相互関係を理解する。さらに神経系（中枢神経系、末梢神経系）について、その構造・機能を理解する。					
<行動目標：S B O> 1. 骨格系の機能を概説できる。 2. 全身の個々の骨を見分け、名称を言える。 3. 椎骨に共通の基本構造、また頸椎・胸椎・腰椎各々の特色を理解し、説明できる。 4. 椎間円板または脊柱弯曲の意義について説明できる。 5. 体肢の骨格では上肢・下肢を比較しながら、各骨の細部の名称を言える。 6. 骨の連結の種類を形態学的に分類し、説明できる。 7. 関節の形態的な分類と代表例を説明できる。 8. 体肢における滑膜性連結と靱帯について説明できる。 9. 筋組織の種類、形態学的特徴と機能について理解し、体内の分布部位を説明できる。 10. 骨格筋の構造とその付属器について概説できる。 11. 主要な骨格筋の名称、起始・停止、支配神経を理解し、簡単な作用について説明できる。 12. 神経系を構造、機能の観点から分類し、それぞれを概説できる。 13. 中枢神経系、末梢神経系の構成を概説できる。 14. 中枢神経系を区分し、各々の機能を概説できる。 15. 脳神経の番号、名称、主たる働きを説明できる。 16. 脊髄神経を概説し、4つの神経叢の神経分布を説明できる。 17. 交感神経系、副交感神経系について構造と機能を概説できる。					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	骨学1－6	骨とは	骨学総論	1, 2	講義
～		骨学各論	頭蓋 脊柱 胸郭 上肢 下肢	3, 4	〃
6				5	〃
7	関節・靱帯1－6	関節・靱帯総論		6, 7	〃
～		関節・靱帯各論	頭蓋の連結 脊柱、脊柱と頭蓋の連結	8	〃
12		上肢の連結	下肢の連結		〃
13	筋学1－6	筋学総論		9	〃
～		筋学各論	体幹の筋 上肢の筋 下肢の筋	10	〃
18				11	〃
19	神経系1-10	神経系総論		12	〃
～		神経系各論		～	〃
28				17	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書		理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 渡辺正仁 廣川書店 2000年 5500円			
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席状況・態度、小テスト、筆記試験の総合評価			【履修上の留意点】 不定期に小テストを実施します。総合評価にいられますので、欠席をしないよう注意すること。勉学範囲が広いので日頃の勉強が重要です。		